

山本 裕子さん（兵庫県加古川市出身）

JICA 草の根技術協力事業

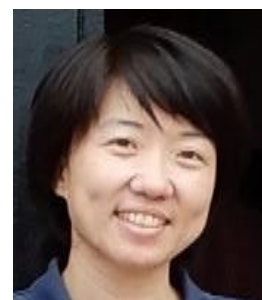
案件名：シンドウパルチョーク郡農家のグループ化による

営農改善と日本の過疎地域の経験を活用した生計向上事業

実施団体：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

実施国：ネパール連邦民主共和国

2018年12月30日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

商品作物の栽培を指導

ネパールの山道を行くと、ドコと呼ばれるかごを頭から下げ、荷物を運ぶ人々をよく見かける。背丈よりも高く積み上げた家畜のえさの葉や草を背負う人も多い。この重労働をしているのは男性だけでなく、女性や子どもも目立つ。海外や都市部に男性が出稼ぎに出ているためだ。

この国では国内総生産(GDP)の約3割を出稼ぎ労働者の外貨資金が占める。村に残った女性が子育て、家事と両立させ生計を立てるのは容易ではない。

ピースウィンズ・ジャパン(広島県神石高原町)は、このような山間部の女性を中心に、商品作物としての野菜栽培の技術指導や、グループ販売などの仕組みづくりの支援を国際協力機構(JICA)草の根技術協力事業で行っている。



山間部の畑で草取り作業をする女性

支援地域のシンドウパルチョーク郡ではトウモロコシやヒエなど穀類を栽培している。しかし穀類は安価なため、ほとんどが家畜用など自家消費となり、現金収入につなげることは難しい。野菜であれば穀類に比べ高く売ることができる。そして単価が高いため、女性一人でも手入れ可能な広さの畑でも行える。誰かに作業をお願いしなくても自分で空いた時間に取り組めるので、育児中の女性でも可能だ。

今回初めて野菜の取引をした人々は「子どもに良い教育を受けさせたい」「肉を食べたい」など目を輝かせ、自信に満ちた顔で次々と将来を語った。私たちはこれからもその笑顔を支える手助けを続けていく。